

# 特定外来生物

# 同定マニュアル

## ■ 爬虫類

カミツキガメ	<i>(Chelydra serpentina)</i>
アカミミガメ	<i>(Trachemys scripta)</i>
ハナガメ	<i>(M. sinensis)</i>
ハナガメ×ニホンイシガメ	<i>(M. sinensis×M. japonica)</i>
ハナガメ×ミナミイシガメ	<i>(M. sinensis×M. mutica)</i>
ハナガメ×クサガメ	<i>(M. sinensis×M. reevesii)</i>
スウィンホーキノボリトカゲ	<i>(J. swinhonis)</i>
アノリス・アルグロス	<i>(Anolis allogus)</i>
アノリス・アルタケウス	<i>(Anolis alutaceus)</i>
アノリス・アングスティケプス	<i>(Anolis angusticeps)</i>
グリーンアノール	<i>(Anolis carolinensis)</i>
アノリス・ホモレキス	<i>(Anolis homolechis)</i>
ブラウンアノール	<i>(Anolis sagrei)</i>
ミナミオオガシラ	<i>(Boiga irregularis)</i>
タイワンスジオ	<i>(Elaphe taeniura friesi)</i>
タイワンハブ	<i>(Protobothrops mucrosquamatus)</i>

# カミツキガメ

分類: カメ目カミツキガメ科

学名: *Chelydra serpentina*

英名: Snapping turtle (Snapper、Common snapping turtle、Common snapper)

和名: カミツキガメ

別名・流通名: カミツキガメ、コモンスナッパー、スナッパー

原産地と分布: カナダ、アメリカ合衆国、中米、南米北部。

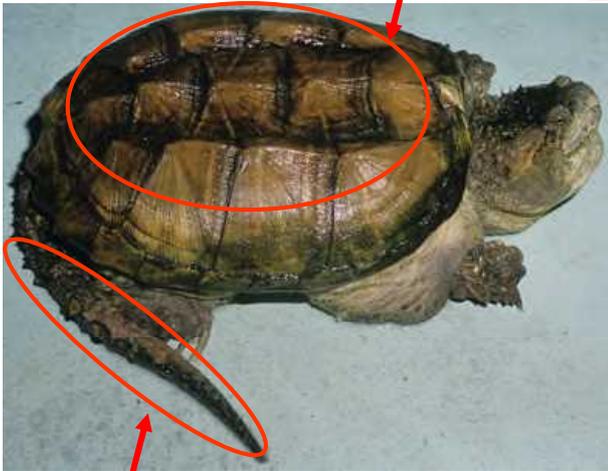
未判定外来生物: なし。

種類名証明書添付生物: ワニガメ。

**形態的特徴:** 北米産の基亜種ホクベイカミツキガメで甲長約50cm、体重約34kgに達するが、他の亜種を含め35 cm を越える個体は稀。甲は厚みがあり、幅広だが、その形には変異が大きい。背甲には3条のやや発達した隆条(キール)があり、後縁は鋸歯状。背甲は褐色ないしオリーブ色(若い個体はより暗色)で、甲板の継ぎ目付近がより暗色となり、黄色や橙色、ないし黒色の筋状模様や放射状模様が入ることがある。腹甲は小型で、橋(腹甲と背甲をつなぐ部分)が横方向に細長く伸びた十字型、幼体では暗色斑を持つことがあるが、成体では一様な黄色ないし黄褐色となる。頭部はかなり大型で、鼻面(吻端)は短くほとんど突き出さない。上顎の先端は尖るか、ほぼ平坦で、ほとんど屈曲しない。四肢は頑健でよく発達し、鋭い爪を備えている。尾は腹甲長に匹敵する長さ。尾の背面には骨質の大型鱗が1--3列になって並ぶ。

背甲の3本の隆条(キール)は破線状で、その前端や後端は縁甲板に達しない。

上顎の先端は尖るか、ほぼ平坦。鼻面(吻端)はあまり突出せず、眼窩から吻端までの距離は眼窩径の1.5~2倍程度。



尾は長く頑健で、背側に1~3列の大型鱗がある。



腹甲は背甲に比べ小型で、斑紋はない。橋(腹甲と背甲をつなぐ部分)は横方向に細長く、四肢の付け根の皮膚が広く露出する。

特記事項:

# アカミミガメ

【条件付特定外来生物】

分類: カメ目ヌマガメ科アカミミガメ属

学名: *Trachemys scripta*

英名: pond slider

別名: ミドリガメ(亜種ミシシippアカミミガメの幼体の呼称)

原産地と分布: アメリカ合衆国東南部からメキシコまで。日本を含む世界各地に侵入、定着している。

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: アカミミガメ属の全種及びアカミミガメ×クーターガメ属またはニシキガメ属に属する種間の交雑により生じた生物 (R5.6.1より)

## 形態的特徴

雄は背甲長 20 cm、雌は 28 cm、2.5 kg 程度まで成長し、雌は雄よりもずっと大型になる。ミシシippアカミミガメ、キバラガメ、カンバーランドキミミガメの 3 亜種が含まれ、日本の野外で見られる個体や、かつて流通していた個体のほぼ全てがミシシippアカミミガメである。背甲は深緑色を基本として、黄色と黒色の縞模様がある。腹甲は黄色地に褐色の斑紋をもつ。ミシシippアカミミガメとカンバーランドキミミガメのオスは成長に伴い黒化し、幼体やメス成体と模様や色が異なる。

### ■ 亜種ミシシippアカミミガメ

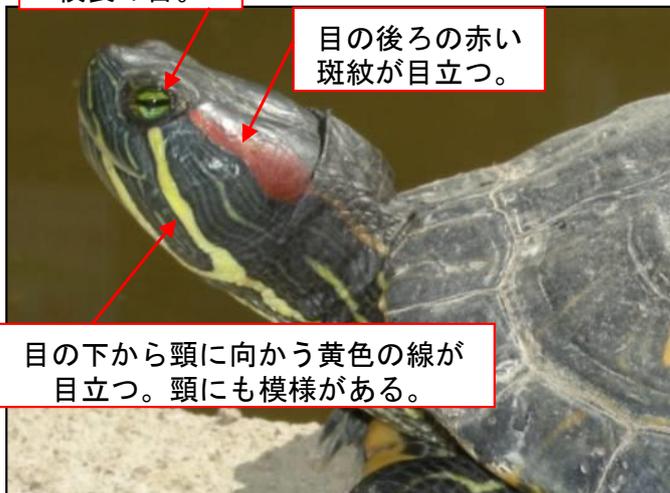
#### 成体



背面は深緑色を基本として、黄色と黒色の縞模様がある。

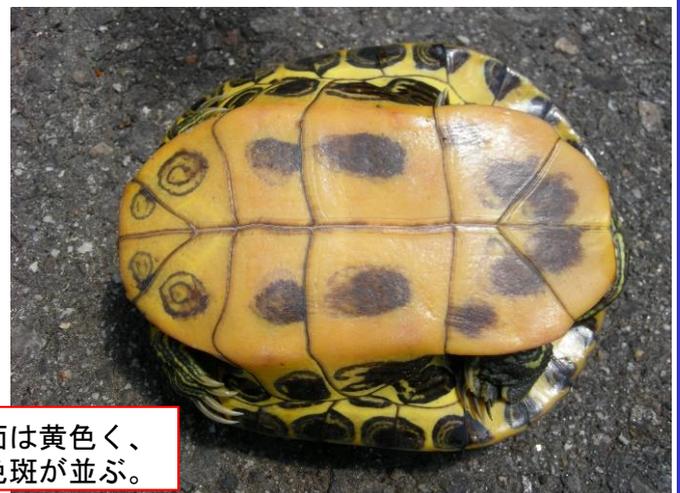
背面の後縁はいくらかキザキザしている。

ヤギのような横長の目。



目の後ろの赤い斑紋が目立つ。

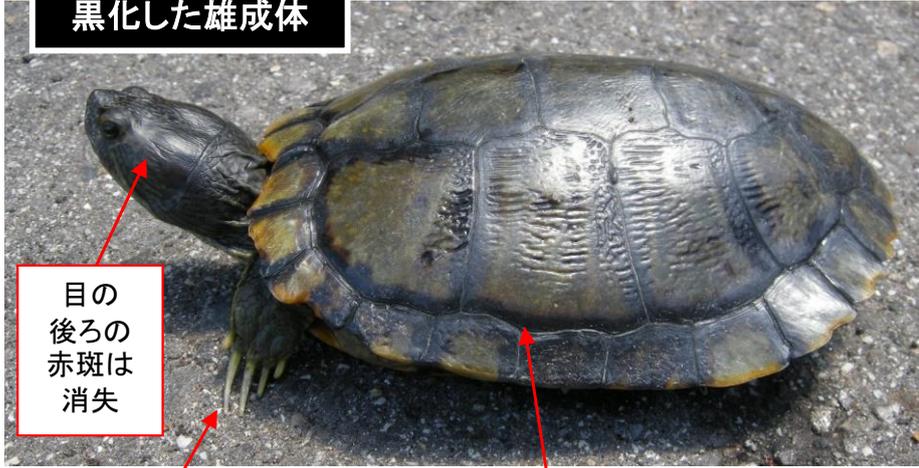
目の下から頸に向かう黄色の線が目立つ。頸にも模様がある。



腹面は黄色く、褐色斑が並ぶ。

■ 亜種ミシシippアカミミガメ(続き)

黒化した雄成体

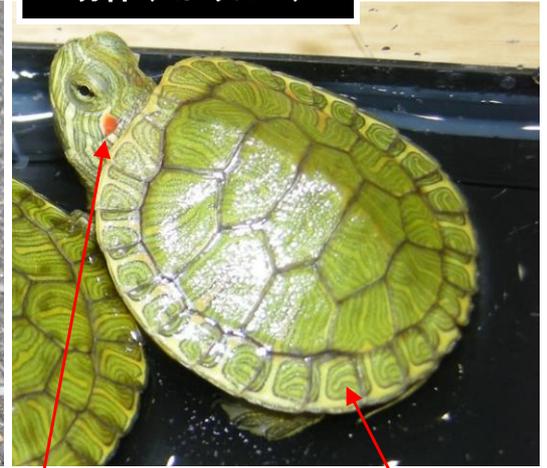


目の後ろの赤斑は消失

雄成体の前足の爪は長い。

黄色い模様が消失して黒っぽくなり、甲板が黒く縁どられる。

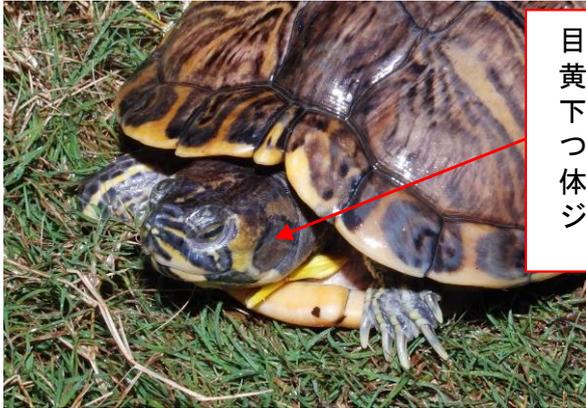
幼体(ミドリガメ)



目の後ろに赤い斑紋

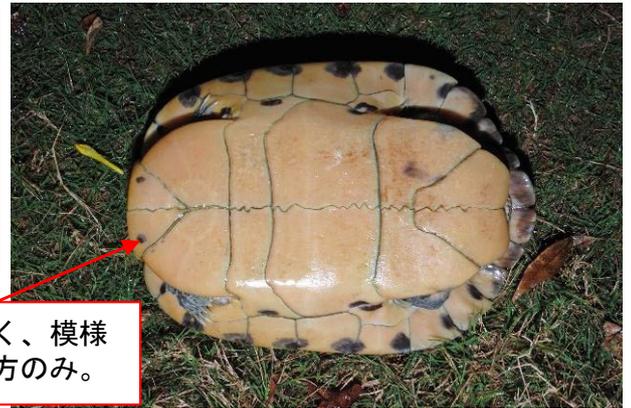
背甲の緑色は鮮やか

■ 亜種キバラガメ



目の後ろに大きな黄色い模様があり下方で頸の模様とつながる。この個体の模様はオレンジ色だが、黄色の個体が普通。

背甲は黄色く、模様はないか前方のみ。



■ 亜種カンバーランドキミミガメ

この亜種は他の亜種に比べると小型で、背甲長は21cm程度。

目の後方の斑紋が黄色い。



腹面は黄色く、褐色斑が並ぶ。



写真提供: ミシシippアカミミガメは自然環境研究センター、キバラガメ、カンバーランドキミミガメは川添宣広

特記事項: アカミミガメの黒化した雄がニホンイシガメや他のカメ類に間違われることがある。アカミミガメの雄成体は前足の爪が細長く伸びるので、まぎらわしい個体を見た場合には爪を確認するとよい。

# ハナガメ

分類: カメ目 イシガメ科 イシガメ属

学名: *Mauremys sinensis*

英名: flower turtle

別名: タイワンハナガメ、フラワータートル

原産地と分布: 台湾、中国南部、ベトナム北部

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: イシガメ属の全種  
及びハナガメ×イシガメ科に属するその他の種  
間の交雑により生じた生物

## 形態的特徴

背甲長は雄で最大20 cm、雌で最大27 cm。雌は雄よりもずっと大型になる。背甲は緩やかなドーム状に盛り上がり、背甲の後縁はギザギザにならない。幼体では背甲に明瞭な3列の隆条(キール)があるが、成長につれて不明瞭となり、成体では中央に破線状の1列を残すのみとなることが多い。側頭部から頸部にかけて8条以上の明色の縦条があること、背甲の肋甲板及び椎甲板は暗色で、各甲板の中央部付近のみ明色となっていること等で他のイシガメ科カメ類と識別可能。



腹面は黄色く、  
褐色の斑紋が目立つ



頭頂部は帽子を被ったように黒い



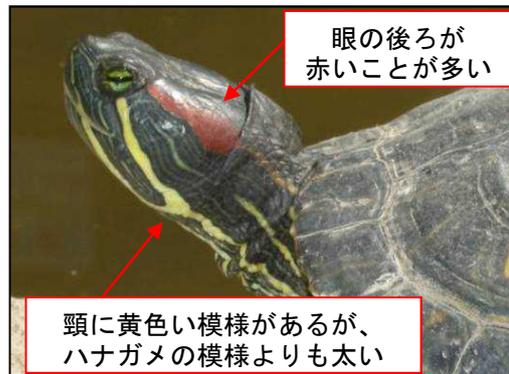
頸から頭部側面は黒と黄色の細いストライプ

クサガメ



頸に黄色い模様があるが、  
ハナガメより太くて不規則

アカミミガメ



眼の後ろが  
赤いことが多い

頸に黄色い模様があるが、  
ハナガメの模様よりも太い

全ての写真提供: 自然環境研究センター

特記事項: 東京都や名古屋市をはじめ、各地で逸出個体が確認されている。名古屋市などではクサガメやニホンイシガメとの交雑個体が確認されており、日本固有種であるニホンイシガメに遺伝的な攪乱をもたらしている可能性がある。

# ハナガメとイシガメ属の交雑個体

(ハナガメ×ニホンイシガメ、ハナガメ×ミナミイシガメ、ハナガメ×クサガメ)

分類: カメ目 イシガメ科 イシガメ属

学名: ハナガメ×ニホンイシガメ *Mauremys sinensis* × *M. japonica*,  
ハナガメ×ミナミイシガメ *M. sinensis* × *M. mutica*,  
ハナガメ×クサガメ *M. sinensis* × *M. reevesii*

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: イシガメ属の全種  
及びハナガメ×イシガメ科に属するその他の種  
間の交雑により生じた生物

形態的特徴: ハナガメの特徴として、側頭部から頸にかけて黒地にクリーム色の細かい縦条があること、腹甲はクリーム色で黒褐色の斑紋があること等が挙げられる。ハナガメとイシガメ属の他の種との交雑個体は、ハナガメの特徴を残しつつ、交雑相手の種の特徴を持つ。交雑個体は頸のしま模様が粗く、不規則になることが多い。



ハナガメ

頸は黒と黄色の  
細いストライプ

左: ハナガメの腹甲  
黄色く、褐色の斑紋が目立つ

右: ハナガメ×クサガメの腹甲  
クサガメに似て黒っぽい、  
不明瞭な斑紋がある。



ハナガメ×ニホンイシガメの交雑とみられる個体

頸のしま模様がハナガメより  
太く、線の数が少ない。



ハナガメ×クサガメの交雑とみられる個体

頸のしま模様が  
粗い。



ニホンイシガメ



クサガメ

全ての写真提供: 自然環境研究センター

特記事項: 名古屋市などでは野外でハナガメが確認されており、クサガメやニホンイシガメとの交雑個体も見つかっている。日本の野外でハナガメの繁殖は未確認であるが、野外で他の種との交雑が進行している可能性は否定できない。

# スウィンホーキノボリトカゲ

分類: 有鱗目トカゲ亜目アガマ科

学名: *Japalura swinhonis*

英名: Swinhoe's tree lizard, Swinhoe's japalura

台湾名: 欺文豪氏攀蜥

別名: スインホーキノボリトカゲ

原産地と分布: 台湾の固有種で、標高1,500 m以下のほぼ全域に分布

未判定外来生物: なし

種類名証明書添付生物: スウィンホーキノボリトカゲ

## 形態的特徴

全長は最大30cm程度だが、雌はやや小型で最大25cm程度。体型はキノボリトカゲ属としては標準的で、四肢が細長く、尾が非常に長い(尾長は頭胴長の2~2.4倍)。日本在来種を含めたキノボリトカゲ属の他の種とは次の点で区別できる。雄の成体は頸部から後肢の付け根よりやや前方まで淡黄色ないし淡橙色の縦条がある(縁は直線的ではなく波状となる)。喉に楕円形の白い斑紋が並ぶ。喉の中央部が橙色みや黄色みを帯びない、上唇板上部にキールの強い鱗が並ぶ。口の中は暗色である。



喉に白斑がある



口の中(口蓋)が黒い



体に緑色味がない

スウィンホーキノボリトカゲ 雄成体

オキナワキノボリトカゲ(在来種)



サキシマキノボリトカゲ(在来種)



在来種は体が緑色がかかることが多い。喉に白斑がなく、口の中は淡黄色。

全ての写真提供: 自然環境研究センター

特記事項: 神奈川県、静岡県、宮崎県に定着している。原産地では優勢な種で、標高の高い山地にも生息することから、日本の各地に生息可能とみられ、注意を要する。

# アノリス・アルログス

分類:トカゲ亜目タテガミトカゲ(イグアナ)科

学名: *Anolis allogus*

英名: Bueycito anole

和名: アノリス・アルログス

別名・流通名:-

原産地と分布: キューバ島(サパタ半島を除く)

**未判定外来生物:** アノリス・アングスティケプス、グリーンアノール及びブラウンアノールを除くアノール属(*Anolis*属)及びノロプス属(*Norops*属)の全種。

**種類名証明書添付生物:** アノール属(*Anolis*属)及びノロプス属(*Norops*属)の全種。

**形態的特徴:** 暗褐色のアノール。平均頭胴長は雄54.8mm、雌で42.6mm。他種のアノールに比べて体サイズは比較的小さい。後肢が長く、尾も長い。おもに樹幹から地上部を生息場所とし、木の幹や低木、地上付近の茂みや岩の上などに定位していることが多い。

アノリス・アルログス全身



デュラップは橙色が強い



**特記事項:** キューバ産のアノールにはブラウンアノール(特定外来生物)、ナイトアノール*A. equestris*など、本来の生息地外で定着した種が複数知られている。

# アノリス・アルタケウス

分類:トカゲ亜目タテガミトカゲ(イグアナ)科

学名: *Anolis alutaceus*

英名: Blue-eyed grass-bush anole, Monte Verde Anole

和名: アノリス・アルタケウス

別名・流通名:-

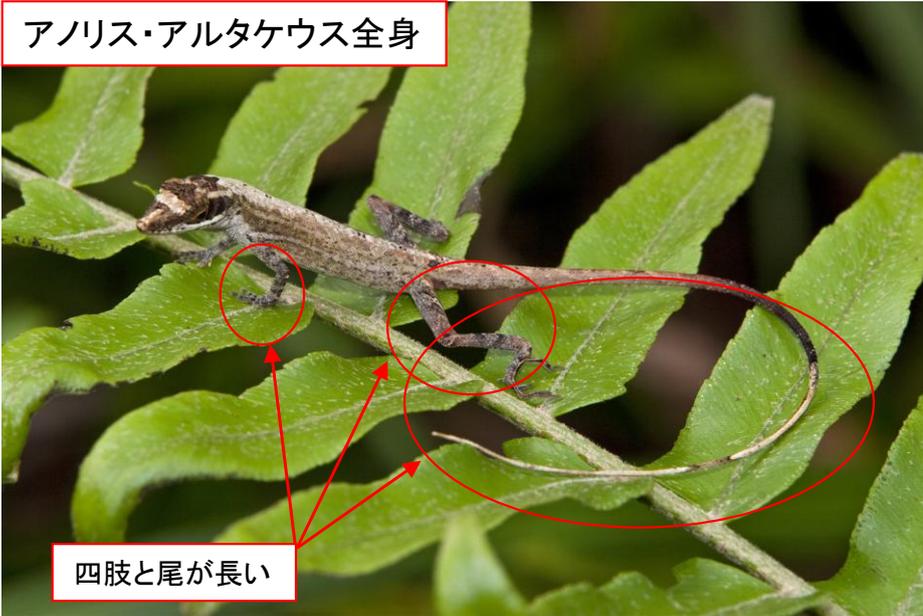
原産地と分布: キューバ(フベントウド島を含む)

未判定外来生物: アノリス・アングスティケプス、グリーンアノール及びブラウンアノールを除くアノール属(*Anolis*属)及びノロプス属(*Norops*属)の全種。

種類名証明書添付生物: アノール属(*Anolis*属)及びノロプス属(*Norops*属)の全種。

形態的特徴: 体色は褐色で、淡褐色の背中線が入る。平均頭胴長は雄34.1mm、雌32.9mm。グリーンアノールやブラウンアノール(頭胴長50~70mm)より小型で、体型は細長く、後肢・尾ともに長い。体色には、多くの場合、同一個体群内に2タイプがみられる(背中線が明瞭なタイプと不明瞭なタイプ)。おもに地上付近の低木や藪、草むらを生息場所とする。低木や草本の枝や葉に定位することが多い。

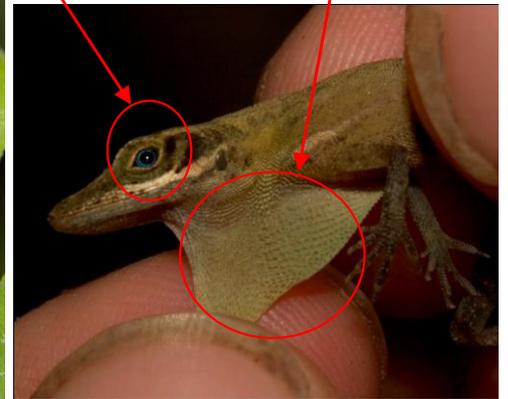
アノリス・アルタケウス全身



四肢と尾が長い

鮮やかな青色の眼

薄茶色



淡褐色の背中線



特記事項: キューバ産のアノールにはブラウンアノール(特定外来生物)、ナイトアノール*A. equestris*など、本来の生息地外で定着した種が複数知られている。

# アノリス・アングスティケプス

分類:トカゲ亜目タテガミトカゲ(イグアナ)科

学名: *Anolis angusticeps*

英名: Cuban twig anole

和名: アノリス・アングスティケプス

別名・流通名:-

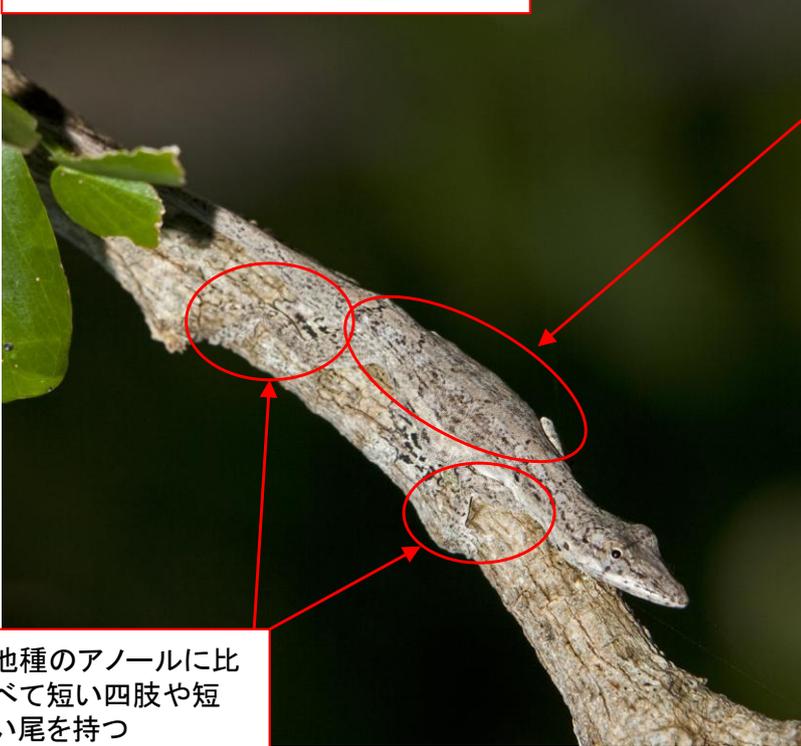
原産地と分布: キューバ(フベントウド島を含む)、バハマ諸島。

**未判定外来生物:** アノリス・アングスティケプス、グリーンアノール及びブラウンアノールを除くアノール属(*Anolis*属)及びノロプス属(*Norops*属)の全種。

**種類名証明書添付生物:** アノール属(*Anolis*属)及びノロプス属(*Norops*属)の全種。

**形態的特徴:** 褐色のアノール。平均頭胴長はキューバ産のもので37.6mm、バハマ諸島のもので47.7mm。グリーンアノールやブラウンアノール(頭胴長50~70mm)より小型である。他種のアノールに比べて短い四肢や短い尾を持ち、体表には樹皮のような細かい模様がある。細い枝先に定位してあまり動かず、枝にカムフラージュする。

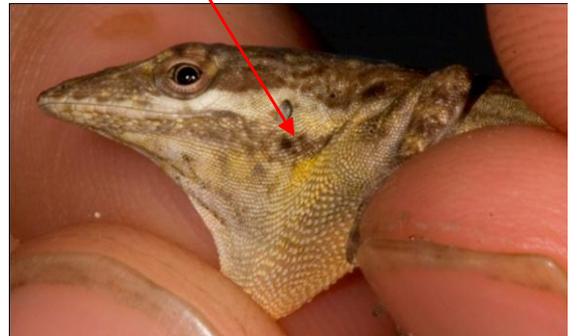
アノリス・アングスティケプス全身



樹皮のような細かい模様

少し黄色味がかったデュラップ

他種のアノールに比べて短い四肢や短い尾を持つ



**特記事項:** キューバ産のアノールにはブラウンアノール(特定外来生物)、ナイトアノール*A. equestris*など、本来の生息地外で定着した種が複数知られている。

# グリーンアノール

分類:トカゲ目イグアナ科

学名: *Anolis carolinensis*

英名: Green Anole

和名: グリーンアノール

別名・流通名: グリーンアノール・ミドリアノール・アメリカカメレオン

原産地と分布: アメリカ合衆国東南部(バージニア州からフロリダ半島、テキサス州頭部まで)、バハマ諸島、グランドケイマン諸島、キューバ、メキシコに原産。グアム、ハワイ、ベリーズ、日本(小笠原諸島父島・母島、沖縄島)などに移入。

未判定外来生物: アノール属(*Anolis*属; *Norops*属を含む)の全種。

種類名証明書添付生物: なし。

**形態的特徴:** 全長は平均12.5~20cm、最大23cm。尾は鼻先から肛門までの長さの2倍程度。頭は割に大きく、角張っていててっぺんは平ら。頭部から背中にかけてたてがみ状の突起がない。雄はピンク色のデュラップ(喉にある扇状の袋)を持ち、興奮すると広げる。デュラップにほとんど赤みがなく緑白色の個体もいる。また雌のデュラップは小さい。胴体は背、腹とも細かい鱗に覆われる。前肢、後肢とも指が膨らんでおり、膨らみの裏側には細かい溝状の筋があって、これをつるつるした葉などに止まることができる。体色は鮮やかな緑色のことが多いが、褐色や中間の色にもなる。目の周りがアイシャドーを塗ったように青い。

グリーンアノール全身



デュラップを広げたところ



後足の裏側

**特記事項:** 在来種に似たものはない。アノール属には類似の種があるが、デュラップの色やたてがみ状の突起がないことなどで区別される。かつてはペット及びペット(爬虫類食性のヘビ類等)の餌として多数が輸入されていた。小笠原諸島の父島と母島には高密度で生息し、沖縄島の一部でも定着している。これらの個体が意図的または非意図的に本州などに持ち込まれる可能性もある。

# アノリス・ホモレキス

分類:トカゲ亜目タテガミトカゲ(イグアナ)科

学名: *Anolis homolechis*

英名: Habana Anole, Cuban white-fanned anole

和名: アノリス・ホモレキス

別名・流通名:-

原産地と分布: キューバ島、フベントウ島、カナレオス諸島、サンフェリペ島

未判定外来生物: アノリス・アングスティケプス、グリーンアノール及びブラウンアノールを除くアノール属(*Anolis*属)及びノロプス属(*Norops*属)の全種。

種類名証明書添付生物: アノール属(*Anolis*属)及びノロプス属(*Norops*属)の全種。

**形態的特徴:** 暗褐色のアノール。平均頭胴長は雄53.8mm、雌で40.5mm。おもに樹幹から地上部を生息場所とする。木の幹や低木、地上付近の茂みや岩の上などに定位していることが多い。日光浴をするが、地域によってはほとんど直射日光が差さない林内に生息する場合がある。原産地であるキューバ島では低地から山岳帯まで広く分布し、あらゆるタイプの森林や二次林、プランテーション等に生息している。



眼の縁が鮮やかな黄色

デュラップは白い

**特記事項:** キューバ産のアノールにはブラウンアノール(特定外来生物)、ナイトアノール *A. equestris* など、本来の生息地外で定着した種が複数知られている。

# ブラウンアノール

分類:トカゲ目イグアナ科

学名: *Anolis sagrei*

英名: Brown Anole

和名: ブラウンアノール

別名・流通名: ブラウンアノール

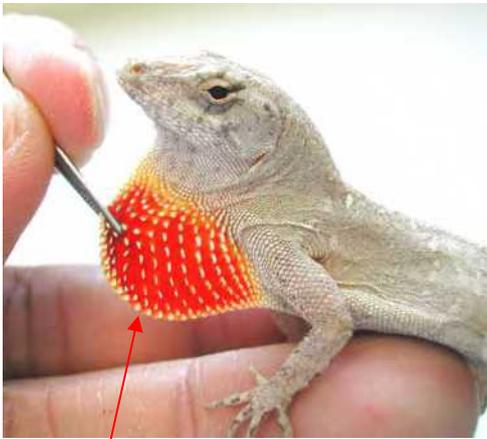
原産地と分布: メキシコ、ベリーズ、グアテマラ、ホンジュラス、キューバ、ジャマイカ、バハマ、グレナダに原産。アメリカ合衆国(フロリダ、ジョージア、テキサス、ルイジアナ、ハワイの各州)や台湾などに移入。

未判定外来生物: アノール属(*Anolis*属; *Norops*属を含む)の全種。

種類名証明書添付生物: なし。

**形態的特徴:** 全長は平均13~20cm。尾は鼻先から肛門までの長さの2倍程度。頭は割に大きく、角張っていててっぺんは平ら。成熟した雄には頭部から背中にかけてたてがみ状の突起が生じることがある。雄は鮮やかなオレンジ色のデュラップ(喉にある扇状の袋)を持ち、興奮すると広げる。デュラップの縁が白っぽく縁取られることもある。胴体は、背、腹とも細かい鱗に覆われる。前肢、後肢とも指が膨らんでおり、膨らみの裏側には細かい溝状の筋があつて、これをつるつるした葉などに止まることができる。体色は褐色で、緑色にはならない。雌の背面には濃褐色のジグザグ模様が出る。目の後ろに、まつげのような黒い模様が出る。

## ブラウンアノール全身



デュラップを広げたところ



後足の裏側

**特記事項:** 在来種に似たものはいない。アノール属には類似の種があるが、デュラップの色などで区別される。かつてはペット及びペット(爬虫類食性のヘビ類等)の餌として輸入されていた。グリーンアノールと異なり日本には定着していない。

# ミナミオオガシラ

分類:トカゲ目ナミヘビ科

学名: *Boiga irregularis*

英名: Brown tree snake, Brown cat snake

和名: ミナミオオガシラ

別名・流通名: ミナミオオガシラ、ナンヨウオオガシラ

原産地と分布: オーストラリア北部、インドネシア東部、ニューギニア、ソロモン、およびその付近の島々に原産、グアムなどに定着

未判定外来生物: オオガシラ (*Boiga*) 属の全種。

種類名証明書添付生物: チャマダラ (*Psammodynastes* 属) 全種。

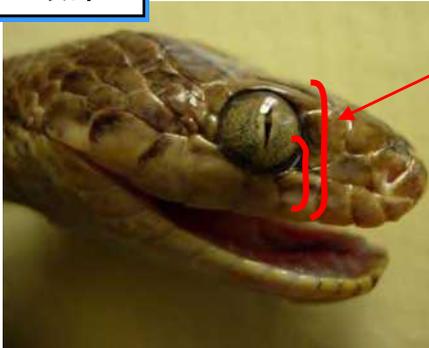
**形態的特徴:** 全長は平均1.5~2m、最大2.3m。胴体は高さよりも幅が狭く、腹面の両脇はわずかに角張っている。頭部は大きく、首からはっきりと区別できる。目も大きく、その直径は目から上唇の縁までの距離の2倍くらい。瞳はネコの目のように縦に長い。胴体の鱗はなめらかで、胴中央部で19~23列あり、背中の中心線上の鱗は両側の鱗よりも幅広く縦長の六角形を呈する。茶色の地にぼやけた暗色の斑紋があり、大きな体側部の斑紋と背中側の斑紋が交互に並ぶ。上顎骨の後方の1ないし2本の歯は大きく、溝を持ち、ここに弱い毒液が分泌される。

全体



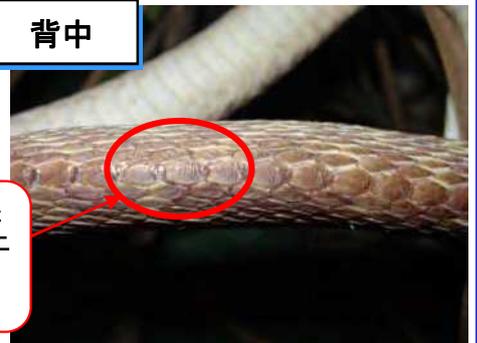
全体的に茶色で、ぼやけた暗色の斑紋がある

頭部



目も大きく、その直径は目から上唇の縁までの距離の2倍くらい。瞳はネコの目のように縦に長い

背中



胴体の鱗はなめらかで、胴中央部で19~23列。背中の中心線上の鱗は両側の鱗よりも幅広く縦長の六角形である

**特記事項:** 在来のヘビではイワサキシセダカヘビに最もよく似るが、セダカヘビには、のどの所の縦の溝がない。また頭部と首の区別が明瞭ではない。

# タイワンスジオ

分類:トカゲ目ナミヘビ科

学名: *Elaphe taeniura friesei*

英名: Taiwan beauty snake, Taiwan striped-tailed rat snake, Striped tailed racer

和名: タイワンスジオ

別名・流通名: タイワンスジオ

原産地と分布: 台湾。沖縄島に移入。

未判定外来生物: スジオナメラ (*Elaphe taeniura*) 全亜種 (タイワンスジオとサキシマスジオを除く)。

種類名証明書添付生物: ホウシヤナメラ (*Elaphe radiata*) 。

**形態的特徴:** 全長は平均2.2m、最大2.7m。胴体の側面には、高い位置と低い位置に交互に黒い斑紋があり、高い位置のものはしばしば背中を横断して左右の斑紋がつながる。これらの斑紋は後方に行くにつれ前後につながり、上下に広がり、胴体後部から尾にかけては黒い帯となり、背中の中心線と側面下部に黄みがかかった縦縞が残る。尾の腹面も黒く中心線上のみ明るい色をしている。頭部は前後に細長く、目から後方に、黒くて太い縦縞が延びる。瞳は丸い。胴体の腹面の両脇は角張っている。舌は黒く、左右が青く縁取られる。子ヘビの色彩も親に似ている。

タイワンスジオ全身



タイワンスジオ顔



**特記事項:** サキシマスジオは、全体的に茶色味が濃く、斑紋は淡くて黒くはならず、ぼやけている。舌は赤く縁取られる。なお、学名として、*Orthriophis taeniurus friesei* が使われることもある。

## 台湾ハブ

分類:トカゲ目クサリヘビ科

学名: *Protobothrops mucrosquamatus*  
(*Trimeresurus mucrosquamatus*)

英名: Taiwan habu, Turtle-designed snake, Checker-backed pit viper, Pointed-scaled pit viper

和名: 台湾ハブ

別名・流通名: 台湾ハブ

原産地と分布: 台湾、中国、ベトナム北部、ミャンマー、インド東部(アッサム)、バングラデシュ。沖縄島に移入。

未判定外来生物: ハブ属(*Protobothrops*属)の全種(日本産ハブ属と台湾ハブを除く)。

種類名証明書添付生物: ヤジリハブ属(*Bothrops*属)の全種。

**形態的特徴:** 全長は平均70~100cm、最大121cm。細長い体型で、首は細く、頭部は長三角形で首から区別できる。目の少し前にはピット器官と呼ばれるくぼみがある。淡褐色の地に、暗褐色の斑紋が、背中の中心にそって1列と、左右の体側に1列ずつ並んでいる。背中の中央の斑紋の方が大きく、しばしば前後につながって、鎖状の模様になる。頭部の背面には縁を残して暗色の部分があり、目から後方に向かって、暗色の線が延びる。瞳はネコの目のように縦長。胴体中央部の鱗は、大陸産では25列、台湾産では主に27列並んでいる。腹側の幅の広い鱗は、のどから総排出口までで、194~233枚、尾の腹側の対になっている鱗は、総排出口の後ろから尾端の鱗までで70~100対ある。



**特記事項:** サキシマハブは、台湾ハブに比べより太短い体型で、色彩の変異が大きい。典型的な個体は台湾ハブによく似るが、しばしば斑紋が不明瞭で、赤みの強い個体がいる。腹側の幅の広い鱗は、182~192枚と台湾ハブよりも少ない。胴体中央部の鱗も、23~25列で、台湾ハブに比べやや少ない。